

ヨシユアの言葉に聴く

(ヨシユア1・12〜18)

一、ヨシユア記をめぐって

キリスト教会はヨシユア記から、ヨブ記の前のエステル記までを「歴史書」として区分しています。歴史と言いますと、現代では「事実が何であったか」をたいせつにします。さらに、事実に解釈を加えて「歴史書」なるものが生まれます。そういう考え方で読みますと、ヨシユア記が語ろうとしていないことを読み込んでしまうことになります。

では、ヨシユア記が語ろうとしているのは何なのでしょう。イスラエルが主なる神の名によって、カナンの地を侵略していった歴史でしょうか。そのような視点でヨシユア記を読むなら、ヨシユア記が聖書の中にあることに躓きを覚える人が出てまいります。

実は、ヨシユア記は歴史というていさいを採っていますが、この中には神の御意思が詰まっています。すなわち、神がイスラエルに与えられた土地が、主を信じ、律法を守ることによって自分たちのものになって行ったというメッセージです。そして、ヨシユア記、士師記、サムエル記、列王記と続く一連の歴史書の終りは、イスラエルが不信仰になり、主の言葉を退けたので、神がイスラエルに賜った土地を失ってしまっ

た、というメッセージです。

二、占領地をめぐって

きょうの聖書箇所は『聖書愛読こよみに』に沿い、1章12節から18節ですが、この範囲だから語るのはむしろかしたため、少し広げさせていただきます。1章3節をご覧ください。〈あなたがたが足の裏で踏む所はことごとく、わたしがモーセに約束したとおり、あなたがたに与えている。〉と、主がヨシユアに語られた言葉が記されています。ここに書かれている言葉は〈あなたがたですから、イスラエル全体に語られたメッセージであると知ります。

さらに4節には、神がイスラエルに賜った土地の範囲が書かれています。〈あなたがたの領土は、この荒野とあのレバノンから、大河ユーフラテス、ヘテ人の全土および日の入るほうの大海に至るまでである。〉とあります。11章、12章にはヨシユアが占領した土地のリストが詳しく載っています。ですが、こんなに広範囲な地域を、ヨシユアが獲得することはできたのでしょうか。当然のこと、無理でした。ヨシユアが晩年になつたときに主が語られた言葉が13章1節に書かれています。〈ヨシユアは年を重ねて老人になつた。主は彼に仰せられた。「あなたは年を重ね、老人になつたが、まだ占領すべき地がたくさん残っている。〉と。事実としては、徐々に

進攻して行ったようです。しかもイスラエルは、だれも住んでいないか、ほとんど人が住んでいない地域に進攻して行ったようです。これが、考古学者の見解です。そういうわけで、このヨシユア記に記されている占領地は、ヨシユアの時代から士師記の時代を経て、イスラエルの最盛期となったダビデ・ソロモン王時代に実現した版図です(↓I列王5・1、4)。ダビデ・ソロモン王時代に実現した版図をヨシユアの時代にさかのぼらせるといふ、今日の歴史書の書き方からするなら考えられないような記述がなされているわけです。

三、ヨシユア記に聴く

ヨシユア記には、神がイスラエルに備えられた道を、ヨシユアを始めとするイスラエルが主を信じるることによって踏み出し、土地を取得することが語られています。2節をご覧ください。〈ヨシユア1・2〉 神を信じるとは一歩踏み出すことです。ヨシユアが率いるイスラエルは踏み出しました。10節、11節です。〈ヨシユア1・10〜11〉

その際の、主なる神からの保障は何だったでしょうか。それは「わたしはあなたと共にいる」という主の約束でした。9節です。〈ヨシユア1・9〉 この言葉は、復活の主イエスが語られた言葉(マタイ28・20b)見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたと

ともにいます。〉と重なります。

元に戻りますが、それゆえに、主は語られました。今一度、9節を見てまいります。〈ヨシユア1・9a〉 これも主イエス・キリストが語られた言葉(ヨハネ16・33c)勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝つたのです。〉に重なります。

最後に、きょう開かれた聖書箇所から聞くメッセージは、同じ神に従う者として一つになることです。12節から14節をご覧ください。〈ヨシユア1・12〜14〉 ルベン人、ガド人とマナセの半部族は多くの家畜を持っていました。彼らはヨルダン川の東側に家畜に適した場所を見つけ、自分たちが所有することをモーセに嘆願してかなえられました。しかし、主なる神を信奉する者として他の部族と一致することが求められました。主の御意思は、主によって結び合わされた者たちが、互いのちがいを認めつつ「これぞ」と言うときに一致して行動することです。これも、教会に与えられた言葉と重なります。〈エペソ4・2〜3謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもつて互いに忍び合い、平和のきずなで結ばれて御霊の一致を熱心に保ちなさい。〉がそうです。

以上、旧約のメッセージと新約のメッセージは重なることが分かります。それは、旧約時代、主としてあらわれられた神も、教会が父・子・聖霊なる神として信じる神も同じお方だからです。